



## ～ こどもの叱り方 ～

「叱（しか）る」という言葉はどういう意味を持っているのでしょうか？叱るは口偏に七、七は「しっ」という強い音を表します。強い口調で注意を促すことです。『字通』という辞書には「ののしる・せめる」という意味まで入っていると書かれています。

ですから、子育ての中では「しかる（叱る）」ということとはできるだけ少ないほうがよいのです。どうしてもしかることが必要な時と場合ってどんな場面でしょうか？そうです。命にかかわることで、すぐにも止めさせたい場面です。この時はその行動を止めるために、強い音で「だめ」ということもあるかもしれません。でも、高いところに登っている子を見とがめて、「だめ、下りなさい」と大声で言うと、かえってびっくりさせて危険になる場面も考えられます。この場合は「見守っているよ。落ち着いて下りてきて」という意図が伝わるように、こちらも落ちつく必要があります。小中学生を相手にしても、行動を止めさせたいという意図が伝わらないで、自分への攻撃と受けとめると、反発の心が生まれてきて逆効果です。大人はまずは、自分自身の「しかりたい」という気持ちに気づいて、本当は子どもに何を求めているのか、考えてみてください。

好ましくない行動を減らすためには、しかるよりも「注目を取り去り、待つ」ことが大切です。しかることが否定的な注目になると、注目してもらうことが楽しくて、どんどん好ましくない行動が増えていきます。「その子を認めて、勇気づける」ほうが結局は好ましい行動が増えてくるのです。どうしても「しかる」必要があるときは、短く簡潔に「危ないから。みんなが困るから」と理由も知らせましょう。